

# 広報誌

ペケレベツとは

アイヌ語で「明るく清らかな川」を意味しており、清水町の由来となっています。



# ペケレベツ



## 院長新挨拶 トピックス

縁の下の力持ちをさらに骨太にする横道塾  
全道日赤職員親善スポーツ大会参加してきました！  
弾性ストッキングのおはなし  
清水赤十字病院 Web Times お届け版  
ラフティング&新得そば祭り

人事消息  
理念・基本方針  
編集後記





清水町に国立公園が誕生したことは本誌 33 号で触れたが、この 9 月 7 日に記念の登山会が催され、参加者は十勝と日高の双方より 40 名を超えて大変にぎやかなイベントとなった。登りは 4 時間を超え体力的にも少しハードであったが、頂から 360° の眺望を我がものにした時にはまさに感無量であった。よもや町内にこのような素晴らしい場所があるうとは！…大雪連山、阿寒、日高山脈がくっきりと視界に入った、この景色は一生忘れまい。当期は然別湖で天然記念物のミヤベイワナ釣りを楽しみ、周辺の南ペトウトル・西ヌプカウシヌプリ・白雲山に登り、十勝川上流でラフティングを楽しんだ。十勝在住 17 年目にて初めて地元の大自然を余すところなく満喫できた。



このところ、地球温暖化あるいは気候変動により世界中で経験したことがないような自然災害が頻発し、この 1 月震災に見舞われた能登半島を再び豪雨が襲った、自然の力の前に人間は無力であることを思い知らされたが、それにしても痛ましい出来事である。赤十字の一員として我々も準備と災害派遣にますます注力していかなければならないと感じる。

働き方改革の始まりに伴い労働時間は制限され、医療業界は更なる仕事の効率化を求められている。AI の利用を含めたデジタルトランスフォーメーションは日進月歩であり、乗り遅れることはすなわち病院経営の後退にさえ繋がる、“機械”はヒトの何倍も何十倍もの速度で業務をこなす文句も言わないが、大切なのはそれを扱う人間の哲学であろう。機械は作業や判断を助けてくれるが、善悪の区別はできない、それどころか悪のツールとなることも近年しばしば見受けられる。故に良識を磨く機会が日々継続して求められる。

ありのままの自然と人間の共存のためにはたゆまぬ努力が必要である。我々も地域を守り医療を支える立場として双方を深く理解しなければならず、時には山紫水明を楽しみながら自然の摂理を知り良識を磨くことが肝心である、などと説くのはいささか我田引水かもしれないが、大自然の中で医療に従事する身として晩秋にふと思った本音である。





## 「縁の下の力持ちをさらに骨太にする横道塾」

日本赤十字社医療事業推進本部  
医療の質・研修部 横江 正道

ポストコロナの時代を迎え、医療をめぐる外部環境が大きく変わってきていることは誰もが実感していることでしょう。もちろん、ひとりひとりの患者さんに親身になって適切な医療を真心こめて届けることが重要であることに違いはありませんが、その主役が医師や看護師、薬剤師、医療技術職ばかりではなく、患者さん満足を得るにはすべての病院職員の努力が必要です。患者さんにより医療を届けるためには「病院」という場が欠かせません。もしも、病院が無くなったら、地域のみなさんの困窮度は計り知れません。人が毎日、元気に活動していくために「健康」が必要であるのと同じく、病院が将来にわたり存続していくためには、やはり「健全経営」は欠かせません。医師や看護師も経営とは無縁ではありませんが、しっかり病院の経営を見つめる事務部門は病院の縁の下の力持ちです。事務職の仲にもいろいろな役割がありますが、病院がよくなるため、存続していくためには、確実な収益を確保しなくてはなりません。その方法や戦略を考えていく事務部門はある意味で病院の健康度をチェックして、弱っているところを直し、強くすべきところをみつけていく能力が必要になります。2023年度から始まった「横道塾」は、有志の事務職員を対象に、ときに横道に迷いながら、経営の基本的な部分、とくにマーケティングを楽しく学ぶ機会になっています。マーケティングと聞くと、なんだかお金儲けの指南塾？錬金術？金儲けのレシピ？を勉強しているのですか？と思われるかもしれませんが、そうではありません。清水赤十字病院がいま持っている能力をさらに活かし、できていないこと、今後すべきことを探し、できるかどうかを考えていくことがこの横道塾の目指すところです。病院では縁の下の力持ちとして頑張っていただいている事務職員のみなさんの視座を高め、効率性を追求し、自己能力を向上することで、病院の骨格をさらに強くし、転ん



でも簡単には骨折しないようにしていく組織を作ることが目的です。昨年度はフレームワークや決算書の読み方、病院理念、損益分岐点なども勉強してきましたが、今年度はマーケティングに絞り込み、プレゼンテーショントレーニングを通じて、まとめる力と伝える力の強化も目論み、成果が出始めていると聞いています。すこし難しい課題を出すこともありますが、成長を期待しての愛の鞭です！どうか、楽しく、みなさんと楽しく学んでいきたいと思えます。清水赤十字病院は地域医療の厳しい現実の中で正しい道を探していく努力を続けていきます。



## 令和6年度全道赤十字病院職員親善スポーツ大会に参加して

7月21日に北見市、訓子府町、置戸町で開催された『全道赤十字病院職員親善スポーツ大会』でバレーボールに出場しました。今大会はフットサル、野球、バレーボールの3種目で構成されていました。当院からは、フットサル3名、野球4名、バレーボール3名が出場しました。フットサルは置戸赤十字病院、浦河赤十字病院と、野球は置戸赤十字病院、函館赤十字病院、小清水赤十字病院と合同チームを組み出場しました。バレーボールは栗山赤十字病院と合同チームを組み出場しました。

バレーボールは『置戸町ファミリースポーツセンター』が会場となり、1試合目は北見赤十字病院、2試合目は浦河赤十字病院と対戦しました。結果は2試合とも負けてしまいましたが、バレーボールを通して多くの日赤職員の方と交流することができました。

このような交流会に参加したのは今回が初めてだったため、他の病院のスタッフと交流することができ、とても有意義な時間となりました。

今大会の運営にご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。



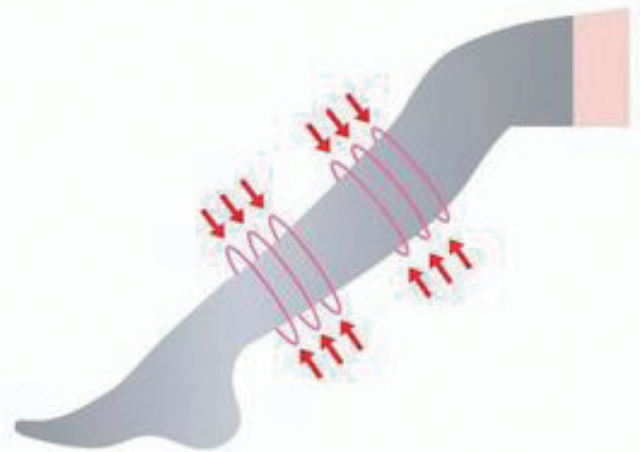
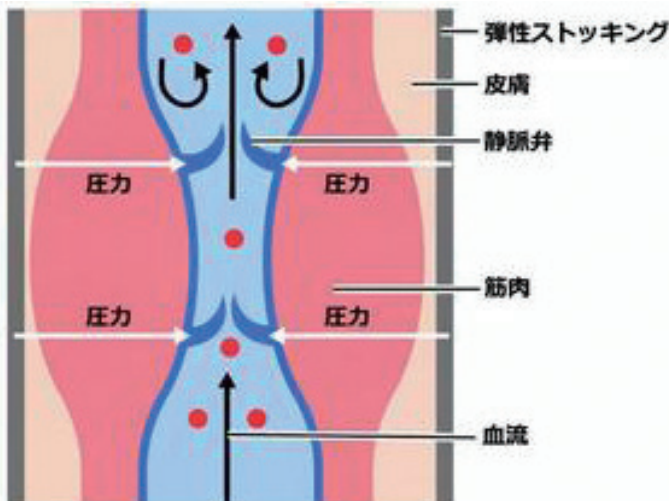
長時間立ち仕事をしたときや夜寝ているときなど、このような症状を感じたことはありませんか？  
症状を感じている方には、弾性ストッキングの着用をお勧めします。

弾性ストッキングは、下肢静脈瘤やリンパ浮腫などの患者さんが使うイメージがありますが、実は私たち「医療従事者」の足の症状にも効果が期待されているのです。

弾性ストッキングは、足首からふくらはぎにかけて強い圧迫圧をかけることで脚の筋ポンプ作用をサポートするストッキングです。

足首部が最も強く心臓にむかって徐々に圧迫圧を弱めることで、静脈還流の促進およびリンパ液のうっ滞を軽減する作用があります。

- 足がむくんでいる
- 足がだるい
- 足がつる



実際、私も外来の立ち仕事で足がむくんで、だるくてひどかったのですが、弾性ストッキングを使ってからむくみが軽減し、足が楽になったのです。もう、かれこれ15年は使用していて手放すことが出来なくなっています。

ぜひ皆さんも試してみてくださいはいかがでしょうか・・・

試着したい方は外科外来までお越しください！





## 第1ブロック支部合同災害救護訓練に参加しました

10月4～5日北見で開催された「令和6年度日本赤十字社第1ブロック支部合同災害対策救護訓練」に当院からも救護班要員1個班が参加しました。

厳冬期の災害救護活動や救護班の役割等について講義を受けた後、仮想避難所や救護所のアセスメントなど総合演習を行いました。

これまでの災害の教訓を活かし、当院でも有事に備えた取り組みを続けてまいります！



LINE 公式アカウント

# 友だち 募集中

@502rofae

清水赤十字病院の LINE 公式アカウントでは  
月1回、友だち限定に上記の記事をはじめとする  
「清水赤十字病院 WebTimes」の発行や  
インフルエンザ予防接種の Web 予約受付など  
みなさんにとって耳よりの情報を発信しています！  
これを機に、ぜひみなさんも  
LINE で“お友達”になりませんか？  
下記の QR コードからご登録をお待ちしております！





9月29日に当院の透析患者さんが営む十勝川ラフティング催行会社で十勝川を下るラフティングに全13名で参加しました。

私は昨年初めて小学生の子供と参加し、とても楽しかったので今年も参加しました。ボート2台に6名・7名と分かれて、いざ！1本目スタート！

ガイドの声に合わせてみんなで力を合わせてバドルを漕ぎ下っていきます。波の高いところで水しぶきを浴びたり、波の穏やかなところで初めて見る木の実や野鳥、景色を見たり十勝ならではの自然豊かな川下りを体験できます。

2本目は波乗りチャレンジ、滝行、川への飛び込みも行いました。メンバーは藤城院長を筆頭に福岡赤十字病院から診療応援にいらしている井上先生、小田先生、臨床工学技術課長の中田課長や薬剤部の高橋さん等の男性(重量級)ばかりでしたので隣で下っていたボートよりもより迫力のある体験ができた…ような気がします。小学校3年生の息子は「船長」と呼ばれ、満足気に一番前で楽しんでいました。

たくさん楽しんだ後はお腹がすいたので新得そば祭りに参加し、お腹いっぱいになるまでそばを堪能しました。

2年連続参加しましたが、帰り道では「また来年も参加したいね」と話しが出るほど楽しく、貴重な体験でなおかつ職員同士の親睦を深めることのできるイベントでした。

最後に、企画してくださったL字会の方々ありがとうございます。来年も是非よろしく願います。





## 人事消息

### 医師派遣 福岡赤十字病院

7月1日(月)～7月31日(水) 中島 陽平  
8月1日(木)～8月31日(土) 松田 圭央  
9月2日(月)～9月30日(月) 小田 康徳

### 臨床研修医 愛知医療センター 名古屋第二病院

7月1日(月)～7月26日(金) 今井 千歳  
8月5日(月)～8月30日(金) 喜田 隼人  
9月2日(月)～9月27日(金) 石川 諒

### 旭川赤十字病院

7月1日(月)～7月26日(金) 花満 由紀子

### 深谷赤十字病院

7月1日(月)～7月24日(水) 橋本 真殊  
9月2日(月)～9月27日(金) 前田 萌花

### 仙台赤十字病院

8月5日(月)～8月30日(金) 犬谷 優希

### 室蘭日鋼記念病院

8月5日(月)～8月30日(金) 岡村 一輝

### 姫路赤十字病院

9月2日(月)～9月27日(金) 青山 菜々子

### 医学生

旭川医科大学 7月 2名  
8月 0名  
9月 2名

## 編集後記

出張で東京に行き帰りの飛行機にギリギリで飛び乗りホッとしている中、アナウンスで帯広空港は-1℃とっておりました。流石北海道は寒いと東京に出張にいき思ってしまった。

これから更に寒くなっていきます。皆様風邪などひかれないよう健康に気をつけましょう。

検査技術課 永井宏幸



❖ 編集・発行責任者：佐藤 秀美

❖ 編集委員長：首藤 竹司

❖ 発行元：清水赤十字病院

❖ 印刷：東洋株式会社

〒089-0195 北海道上川郡清水町南2条2丁目1番地 TEL 0156-62-2513 FAX 0156-62-4460

URL <https://www.shimizu.jrc.or.jp/> MAIL [contact@shimizu.jrc.or.jp](mailto:contact@shimizu.jrc.or.jp)